

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2	対象	1 学年
担当者	原島 淳史						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『最新現代社会 新訂版』 実教出版			・『テーマ別資料 クローズアップ現代社会 新版』第一学習社 ・ワークシート			70	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	・現代社会を学ぶにあたって ・地球環境問題		・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることや国際的協力が重要であることに気づかせる。		24	
	5	・資源・エネルギー問題 ・生命科学と情報技術の課題		・資源・エネルギー問題の現状について把握させ、持続可能であり公正な分配方法について考察させる。 ・生と死のあり方や情報化社会の課題などの観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。			
	6	・自分らしく生きる ・人間としてよく生きる		・青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 ・先哲の思想や宗教、科学的思考法などについて触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。			
	7	・日本人としての自覚		・わが国における異文化や外来思想の受容と展開について触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。			
2 学 期	9	・現代国家と民主政治		・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政のあり方について考察させる。 ・法に関する基本的な考え方を身につけさせる。		30	
	10	・日本国憲法の基本的性格		・日本国憲法の成立過程や基本原理について理解させ、権力分立や法の支配の重要性を基本的人権の保障と関連させ、より理解を深めさせる。			
	11	・日本の政治機構と政治参加		・日本の政治機構や民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考察させる。			
	12	・現代の経済社会		・経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・金融や財政の意義や役割を理解させるとともに、金融政策や財政政策の目的と手段について理解させる。			
3 学 期	1	・日本経済の特質と国民生活		・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。		16	
	2	・国際社会と人類の課題		・主権や国際政治における諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や世界と共に生きる方法について考察させる。 ・経済のグローバル化に注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。			
	3	・共に生きる社会をめざして ・1年間のまとめと振り返り		・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深めさせる。			
評価の観点		趣 旨				評価の方法	
知識・技能		各単元における知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。 基礎学力の定着と情報活用能力を中心に評価する。				・定期考査（事実的な知識の習得を問う問題） ・定期考査（グラフや表など読み取りを問う問題）	
思考・判断・表現		各単元において、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。 情報活用能力とコミュニケーション力を中心に評価する。				・定期考査（表現力が必要な記述式の問題） ・作文等課題の提出状況と内容 ・授業内での発表内容	
主体的に学習に取り組む態度		年間の授業を通して、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。 基礎学力の定着と他者の尊重を中心に評価する。				・授業に対する取り組み状況 ・ファイル等課題の提出状況と内容	

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2	対象	HR21～HR26
担当者	西村正徳 ・ 金森也紗						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『世界史A 新訂版』実教出版			『アカデミア世界史』浜島書店			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・ヨーロッパの「大航海時代」 		<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流について知る。 ・異文化との接触と、交易によるビジネスの発生と発展、世界の一体化を考察し、理解する。 			26
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大陸の変容 ・ルネサンスと宗教改革 		<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人がアメリカ大陸へ到達して以降のアメリカと世界の変容について理解する。 ・ルネサンスが大航海時代や宗教改革に与えた影響と、それぞれが日本や世界に与えた影響・関係を理解する。 			
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ主権国家体制の成立 ・17～18世紀のヨーロッパ 		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の世界の国家の基となった主権国家がどのように形成したのかを理解する。 ・主権国家成立以降の17～18世紀の世界の覇権争いがどのように展開したかを理解する。 			
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・世界商業の展開 		<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスが世界商業の支配権を握るまでの過程と展開を理解する。 			
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命 ・労働運動と社会主義のはじまり 		<ul style="list-style-type: none"> ・世界初の産業革命がイギリスから起きるまでの過程を理解し、イギリスや世界に何をもたらし、どのように変容させたかを理解する。 ・資本主義や社会主義の成立過程と思想を理解する。 			30
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命 ・アメリカ合衆国の膨張 		<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の成立過程の展開を理解する。 ・アメリカがどのように膨張し、大国になった過程を理解する。 			
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命 ・ナポレオン 		<ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命が起きた背景と、その後の展開について理解する。 ・ナポレオンの登場とナポレオン帝国の成立から没落までの展開を理解する。 			
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアとドイツの統一 ・帝国主義の時代 		<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半のイタリアとドイツの統一過程を理解する。 ・19世紀後半、帝国主義がおこったが、それにより世界がどのように変容していくのかを俯瞰できる。 			
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の世界政策 ・東南アジアの植民地化 		<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義のもと、列強の世界分割がどのように繰り返られていったのか理解する。 ・列強の支配がアジアに及び、アジアがどのように変容されていったのかを理解する。 			14
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中国分割の危機と日本 ・第一次世界大戦 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島をめぐる複雑な情勢の東アジアにヨーロッパ列強が進出し、変容していく過程を理解する。 ・初めての世界戦争の勃発の原因から展開を、各国の視点から理解させる。 			
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦 ・1年間のまとめと振り返り 		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が世界にもたらしたことと、その後の展開について理解する。 ・一年間を振り返り、まとめる。 			
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることができる。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けている。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
思考・判断・表現		近現代の歴史や諸事象の意味や意義、特色などを、年代、推移などの関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり課題を把握し、考察したことを効果的に説明したり、議論できる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
主体的に学習に取り組む態度		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚する。			授業への取り組み グループワーク 発表 レポート課題 授業プリント		

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	3	対象	2学年AB選択受講者 (HR21～HR26)
担当者	金森 也紗						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『新詳 世界史B』帝国書院			『アカデミア世界史』浜島書店			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・人類の出現 ・農耕・牧畜の始まり ・文明の誕生 		<ul style="list-style-type: none"> ・考古学史料を基に、人類の発展を考察させる。 ・農耕が発展し、都市国家が形成されていく流れを理解させる。 ・オリエントや地中海世界の地理を理解する。 			39
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・メソポタミア文明 ・エジプト文明 ・セム系諸民族の興隆 ・中間考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・メソポタミア文明とエジプト文明のそれぞれの文明が誕生した原因と特徴を理解させる。 ・地中海東岸で貿易が発展した理由を考察させる。 			
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アッシリアによるオリエントの統一 ・アケメネス朝ペルシアによるオリエントの再統一 ・エーゲ文明 ・ポリスの形成・スパルタとアテネ 		<ul style="list-style-type: none"> ・アッシリアとアケメネス朝ペルシアの世界帝国の違いを考えさせる。 ・クレタ文明、ミケーネ文明の違いを発掘史料等から考察させる。 ・スパルタとアテネの体制の違いを理解させる。 			
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア戦争 ・デロス同盟とペロポネソス同盟 ・アレクサンドロスの遠征 ・期末考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア戦争の結果、平民が参政権を獲得し、アテネの民主政が確立されていった流れを理解させる。 			
2 学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシア文化とヘレニズム文化 ・共和制ローマ ・帝政ローマ 		<ul style="list-style-type: none"> ・一都市国家のローマは内部矛盾を抱えながらも帝国となり、地中海世界を統一したことを理解させる。 ・帝政初期に生まれたキリスト教も世界宗教へと成長していったことを理解させる。 			45
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の成立 ・ローマ帝国の再建と衰退 ・パルティアとササン朝ペルシア ・東アジア世界の風土と人々 ・中間考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアではイラン系民族が再登場し、東西交易で大きな役割を果たしたこと、またアフリカにもローマとの功績で反映する王国が生まれたことを理解させる。 			
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・殷と周 ・春秋戦国時代と秦の統一 ・漢帝国の外征と内治 ・中央ユーラシア世界の環境と社会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸東部で発生した古代文明は多様な生態環境のもとで農耕に基づく都市文明から都市国家、領域国家へと発展し、東アジア世界の原型が形づくられ始めた事を理解する。 			
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・遊牧国家の成立 スキタイと匈奴 ・突厥帝国とウイグル、チベット ・トルコ人の西方移動とユーラシアの変動 ・三国時代と遊牧民の進出 ・期末考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・中央ユーラシアの遊牧民は、騎射戦術による軍事的優位を生かして草原とオアシスにまたがる遊牧国家を形成し、スキタイと匈奴帝国は定住地域の諸文明に影響を与えたことを理解する。 			
3 学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝時代 ・隋と唐 ・五代十国 ・北宋と南宋 		<ul style="list-style-type: none"> ・遊牧民の侵入と融合、西方文化の流入により、東アジアの社会は大きく変容したこと、またそれらを集大成した隋唐帝国の制度、文化は近隣の諸地域にも広く滋養されていったことを理解する。 			21
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジア世界とインダス文明 ・古典文化の開花とヒンドゥー文化の波及 ・西アジアの風土とイスラームの成立 ・イスラーム世界の形成 		<ul style="list-style-type: none"> ・南アジア世界はインダス文明ののち、アーリア人の文化が土着の多様な文化と融合するなかでヒンドゥー教や仏教、サンスクリット文化など独自のインド文明を形成していったことを理解する。 			
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめと振り返り ・学年末考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめと振り返り ・学年末考査 			
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解できる。諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
思考・判断・表現		世界の歴史の大きな枠組みとしての事象の意義、特色などを年代、推移などの関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり課題を把握し、考察したことを効果的に説明したり、議論できる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
主体的に学習に取り組む態度		世界の歴史の大きな枠組みや展開・諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。			授業 グループワーク 発表 レポート課題		

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3	対象	2学年AB選択受講者 (HR21 HR26)
担当者	青柳秀俊						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『日本史B』訂正版 実務出版			プリント 山川ビジュアル版日本史図録 (山川出版社)			105	
学期	月	指導目標					時数
1 学 期	4	【原始・古代】 日本列島の誕生から農耕社会の成立 古墳時代における大和政権	縄文時代と弥生時代の比較をさせることで、歴史的観点を生徒に身につけさせる。 古墳時代の成立や特徴から当時の大和政権がどのように誕生したのか理解させる。			39	
	5	【律令国家の形成】 飛鳥の朝廷における律令国家の成立 奈良時代における政治史	律令の意味を理解し、どのように国家体制が成立したのか理解させる				
	6	【律令体制の崩壊と貴族の文化】 都の遷都と平安王朝 平安初期の政治改革	政治史の流れを理解させ、遷都の目的やその後の変化を理解させる。 桓武天皇の政策を理解させ、その目的について考察させる				
	7	【文化史】 古代の文化 天平・白鳳文化 唐風文化と平安仏教	古代からの文化の特徴を、仏像や建築物から考察させる				
2 学 期	9	【平安時代】 藤原氏の政治 国風文化	藤原北家の発展を時系列ごとに展開し、生徒にも自分で時系列で並ばせることで理解を深めさせる 国風文化の特徴を理解させる			45	
	10	【貴族の政治から武士の台頭】 貴族の生活 受領と負名 荘園の発展	当時の史料から生活の様子を考察させ、現代との繋がりに気づかせる 土地制度について理解させる				
	11	【武士の台頭と院政】 源氏の進出 荘園制の変化と院政	初期荘園と寄進地形荘園の比較を行い変遷を理解させる 院政がなぜ始まったのかを理解させる				
	12	【武士の政権の誕生】 源平の争いと平氏の政権 院政期の文化史	源氏と平氏の動きを年表や史料から読み取り理解させる 院政期の文化の特徴について考察させる				
3 学 期	1	【鎌倉時代】 幕府が成立するまで 幕府の仕組み	幕府がなぜ誕生したのかを、制度や仕組みを理解させた上で考察させる			21	
	2	【武士の社会】 北条氏の台頭と承久の乱 執権政治	幕府の衰退と執権の関係性について理解させる なぜ北条氏が台頭できたのかを考察させる				
	3	【武士の社会】 武士の生活 武士の土地支配	この時代の史料を読み取り、武士の暮らしを想像させ 武士という身分の特徴について理解させる				
評価の観点	趣 旨					評価の方法	
知識・技能	古代・中世の日本における歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や東アジアの歴史と関連づけて捉えることができる。資料から情報を収集・選択し、それらを的確に読み取ってまとめる技能を身につけている。					定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物 (ノート・プリント)	
思考・判断・表現	古代・中世の日本における諸事象の歴史的意義や経緯・特色な点などを時代背景や現代とのつながりなどに着目して考察し、その成果を様々な発表方法で表現することができる。					定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物 (ノート・プリント)	
主体的に学習に取り組む態度	古代・中世の日本における歴史的諸事象について、自ら興味・関心のある主題を設定し、主体的に探究を進めていくことができる。					定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物 (ノート・プリント)	

教科名	公民	科目名	政治・経済	単位数	2	対象	3 学年
担当者	原島 淳史						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『政治・経済』 東京書籍			<ul style="list-style-type: none"> 『最新図説 政経』 浜島書店 『要点マスター 政治・経済 演習ノート』 東京書籍 ワークシート 			70	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> 政治・経済を学ぶにあたって 民主政治の基本原則 		<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の基本原則について、その成り立ちを歴史的な観点から理解させる。 議院内閣制と大統領制の特徴を学ぶとともに、イスラム諸国や社会主義体制をとる国々の現状について理解させる。 		30	
	5	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の基本原則 		<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成立過程と基本原則を理解させ、具体的な判例を取り上げ、争点や課題について考察させる。 平和主義について理解させるとともに、現実の課題について考察させる。 			
	6	<ul style="list-style-type: none"> 国会と立法 内閣と行政 		<ul style="list-style-type: none"> 戦前と戦後の政治機構の違いを理解させた上で、国会や内閣の諸課題について考察させる。 			
	7	<ul style="list-style-type: none"> 裁判所と司法 地方自治 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の司法制度について理解させた上で、司法制度改革の動きとその内容について理解させる。 地方自治について理解させるとともに、国と地方との関係や課題、住民の政治参加のしくみと意義について考察させる。 			
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> 現代政治の特質と課題 		<ul style="list-style-type: none"> 選挙制度とその特徴を理解させるとともに、日本の選挙をめぐる諸課題について考察させる。 世論の役割やマスメディアの現状とあり方について考察させ、国民の政治参加の新たな動きについて考察させる。 		34	
	10	<ul style="list-style-type: none"> 現代の国際政治 		<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の成立過程や勢力均衡、集団安全保障のしくみについて理解させる。 国際連合の成立過程、役割と課題について理解させ、こんにちの国際社会における日本の役割について考察させる。 			
	11	<ul style="list-style-type: none"> 現代の資本主義経済 現代経済のしくみ 		<ul style="list-style-type: none"> 現代の資本主義経済の成立過程を理解させるとともに、資本主義経済や社会主義経済の特徴についても理解させる。 グローバル化や情報化が進むこんにちの資本主義経済の特徴について考察させる。 			
	12	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の発展と産業構造の変化 福祉社会と日本経済の課題 		<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解させる。 社会保障制度の歴史について、外国も含め発展の経緯を理解させ、日本の社会保障制度の柱についても理解させる。 			
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> 国民経済と国際経済 1年間のまとめと振り返り 		<ul style="list-style-type: none"> 比較生産費説を理解させ、また、国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを理解させる。 グローバル化の進展と地域的経済統合の動きについて理解させ、国際社会における日本の役割について考察させる。 		6	
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		各単元における知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。 基礎学力の定着と情報活用能力を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（事実的な知識の習得を問う問題） 定期考査（グラフや表など読み取りを問う問題） 		
思考・判断・表現		各単元において、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。 情報活用能力とコミュニケーション力を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（表現力が必要な記述式の問題） レポート等課題の提出状況と内容 授業内での発表内容 		
主体的に学習に取り組む態度		年間の授業を通して、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。 基礎学力の定着と他者の尊重を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する取り組み状況 演習ノート提出状況と内容 		

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	単位数	2	対象	HR31~HR36
担当者	青柳秀俊						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『高等学校改訂版日本史A』 第一学習社			プリント			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	ペリー来航と条約調印 開国後の政治と経済 幕末抗争の激化		<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国が開国を要求した意義と幕府支配の変化について理解させる ・開国後の日本経済の混乱について理解させる ・公武合体と尊王攘夷運動について理解させる 			26
	5	倒幕運動 大政奉還と戊辰戦争		<ul style="list-style-type: none"> ・討幕派の形成と国際勢力の動きについて理解させる ・江戸幕府の終焉について理解させる 			
	6	新しい統一国家の形成 新政の始まり 地租改正と殖産興業 文明開化と啓蒙主義 社会生活の変化 人と文化の交流 初期のアジア外交		<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の新政策について理解させる ・四民平等と徴兵制について理解させる ・地租改正と殖産興業政策について理解させる ・明治初期の学問の発達について理解させる ・文明開化について理解させる ・明治初期の外交について理解させる 			
	7	反政府運動の動き アジアの動向と自由民権運動 松方財政と近代産業の発達 民権運動の激化		<ul style="list-style-type: none"> ・士族の反乱と自由民権運動の始まりについて理解させる ・自由民権運動の変化について理解させる 			
2 学 期	9	憲法の諸構想と大日本帝国憲法 立憲体制の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法制定の経過について理解させる ・諸法典編纂の経過について理解させる 			35
	10	初期議会 条約改正の経過 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉		<ul style="list-style-type: none"> ・初期議会の様子について理解させる ・明治政府の条約改正交渉について理解させる ・壬午軍乱、甲申事変について理解させる ・日清戦争の経過について理解させる 			
	11	資本主義の確立 日清戦争後の政治と社会 近代化の諸思潮 北清事変と日英同盟		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命について理解させる ・政党の変化と社会問題の発生について理解させる ・民権論と国権論について理解させる ・日英同盟成立の経過について理解させる 			
	12	日露戦争と国民 日露戦争後の世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争の経緯について理解させる ・日本の植民地経営について理解させる ・韓国併合の経過について理解させる 			
3 学 期	1	資本主義の発達と社会運動 第一次護憲運動 第一次世界大戦と中国侵略		<ul style="list-style-type: none"> ・財閥の形成と社会運動の展開について理解させる ・護憲運動と大正政変について理解させる ・日本の対独参戦、中国侵略について理解させる 			9
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて捉えることができる。資料から情報を収集・選択し、それらを的確に読み取ってまとめる技能を身につけている。			定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物（ノート・プリント）		
思考・判断・表現		近現代の日本における諸事象の歴史的意義や経緯などを現代の諸課題と関連づけて考察し、その成果を様々な発表方法で表現することができる。			定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物（ノート・プリント）		
主体的に学習に取り組む態度		近現代の日本における歴史的諸事象について、自ら興味・関心のある主題を設定し、主体的に探究を進めていくことができる。			定期考査・グループワーク・プレゼンテーション・提出物（ノート・プリント）		

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	2	対象	HR31～HR36
担当者	西村 正徳						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
新詳『世界史B』（帝国書院）			『アカデミア世界史』（浜島書店） 授業プリント（自作） ICT教材			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	【世界の一体化の進展とアジアの変容】 オスマン帝国の衰退と改革		オスマン帝国の衰退と改革の展開について理解する。			26
	5	【世界の一体化の進展とアジアの変容】 エジプトの近代化 イラン・中央アジアの従属化		エジプトを皮切りにヨーロッパ列強によるアフリカ支配の展開と、イランや中東地域の支配の展開と抵抗運動について理解する。			
	6	【世界の一体化の進展とアジアの変容】 インドの植民地化と抵抗運動		インドをめぐる英仏の争いと、イギリスによるインド支配の展開について理解する。			
	7	【世界の一体化の進展とアジアの変容】 東南アジアの植民地化		・ヨーロッパ列強による東南アジア諸国の植民地支配の展開、それによる東南アジア諸国の変容について理解する。			
2 学 期	9	【東アジアの変容と日本の近代化】 アヘン戦争 日本の近代化と東アジア		・列強の支配が東アジアに及び、アヘン戦争による中国の変容とアジアの変容について理解する。			35
	10	【東アジアの変容と日本の近代化】 日露戦争前後の東アジア 辛亥革命と東アジア		・朝鮮半島をめぐる複雑な情勢の東アジアにヨーロッパ列強が進出し、変容していく過程を理解する。 ・辛亥革命の過程と歴史的意義を理解する。			
	11	【2つの世界大戦】 第一次世界大戦、ロシア革命とソ連の成立 ヴェルサイユ体制とワシントン体制		・初めての世界戦争の勃発の原因から展開を、各国の視点から理解する。 ・ロシア革命勃発の過程と、その後の社会体制の変遷について理解する。			
	12	【2つの世界大戦】 第二次世界大戦とその後の世界		・第二次世界大戦と日本の関わり、世界の変容について理解する。			
3 学 期	1	【中世ヨーロッパ】 民族移動と王国の形成 ローマ・カトリックの発展		現代のヨーロッパの枠組みが出来上がったことを理解し、カトリック教会との繋がりについて考察する。			9
	2	【中世ヨーロッパ】 北方の民族移動と封建社会の成立 教皇権の衰退と十字軍		中世ヨーロッパの封建制について理解し、教皇権の拡大について十字軍との繋がり考察する。			
	3	1年間のまとめと振り返り		1年間のまとめと振り返り			
評価の観点	趣 旨					評価の方法	
知識・技能	歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることができる。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。					定期考査 グループワーク 発表 レポート課題	
思考・判断・表現	歴史や諸事象の意味や意義、特色などを、年代、推移などの関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり課題を把握し、考察したことを効果的に説明したり、議論できる。					定期考査 グループワーク 発表 レポート課題	
主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚する。					授業への取り組み グループワーク 発表 レポート課題 授業プリント	

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	2	対象	HR31~HR36 (選択)
担当者	金森 也紗						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『日本史B 新訂版』実教出版			『ビジュアル版 日本史図録』山川出版社			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	鎌倉幕府の成立 鎌倉時代の執権政治 幕府の衰退		武士の政権が誕生する過程を理解するとともに、朝廷と幕府の関係性の変化をとらえさせる。 幕府の政治機関を理解し、執権の役割をとらえさせる。 幕府の衰退理由を内的、外的両面から考察する			26
	5	南北朝の動乱 室町幕府の政治と外交		朝廷の思惑とそれにとまなう周囲の権力争いの流れを理解させ、室町幕府制定までをとらえさせる。 室町幕府の政治機構を鎌倉幕府と比較し特徴をとらえさせる。			
	6	鎌倉文化 室町文化 戦国大名の領地経営		貴族の文化であった国風文化から、武士の文化として栄えた鎌倉幕府と室町幕府の特徴を理解する。 幕府崩壊とともにひろがる各地での大名の土地経営を各領土を比較しながら理解させる。			
	7						
2 学 期	9	ヨーロッパ人の来航 織豊政権		ヨーロッパ人が伝えた鉄砲やキリスト教が日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼしたことを理解させる。 信長・秀吉の天下統一の過程について理解させる。太閤検地・刀狩によって兵農分離が完成したことを理解させる。			35
	10	桃山文化 幕藩体制の成立		戦国大名や豪商の気風を反映して生まれた桃山文化の特色を理解させる。幕藩体制のしくみを理解させる。江戸時代の村や町の様子を理解させる。近世社会の身分・階級について理解させる。			
	11	鎖国 近世の生活と文化		家康の対外政策について理解させる。鎖国完成の経過、「四つの口」の形成について理解させる。 幕府支配下の平和な時代となり、生活・文化がどのように変化したか理解させる。			
	12	江戸時代の農村		農村社会と地域経済の変化について理解させる。			
3 学 期	1	江戸の町		町人生活の様子や変化について理解させる。			9
	2						
	3						
評価の観点		趣 旨			評価の方法		
知識・技能		中世日本における歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけて捉えることができる。資料から情報を収集・選択し、それらを的確に読み取ってまとめる技能を身につけている。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
思考・判断・表現		近世日本における諸事象の歴史的意義や経緯・特色などを時代背景や現代とのつながりなどに着目して考察し、その成果を様々な発表方法で表現することができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		
主体的に学習に取り組む態度		近世日本における歴史的諸事象について、自ら興味・関心のある主題を設定し、主体的に探究を進めていくことができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題		